

2011.01.18：平成23年 健康福祉委員会

開会年月日 平成23年1月18日(火)

開会時刻 午前10時00分

閉会時刻 午後4時18分

開会場所 第4委員会室

議 題 別紙運営次第のとおり

出席委員

委 員 長 松 村 けい子

副委員長 松 岡しげゆき

委 員 坂 本あずまお

委 員 いわい 桐 子

委 員 長 瀬 達 也

委 員 かなざき 文子

委 員 茂 野 善 之

委 員 はぎわら 洋 一

委 員 天 野 久

説明のため出席した者

健康生きがい

太野垣 孝 範

保健所長 黒 岩 京 子

部 長

福祉部長 松 浦 勉

健康推進課長 寺 西 幸 雄

生活衛生課長 吉 濱 哲 雄

介護保険課長 石 橋 千 広

国保年金課長 小 島 隆 夫

福 祉 部 山 田 清

管理課長

障がい者

望 月 一 憲

福祉課長

事務局職員

事務局長 細 井 榮 一

書 記 藤 原 仙 昌

健康福祉委員会運営次第

- 開会宣告
- 理事者あいさつ

○ 署名委員の指名

○ 報告事項

板橋区「飼い主のいない猫（野良猫）の適正管理事業」（あい・キャット事業）について（5頁）

○ 議 題

（健康生きがい部関係）

陳情第145号 板橋区民の民意に適った「人と動物との共生及び動物の愛護と管理に関する条例」の制定を確保するための陳情

○はぎわら洋一

このあい・キャット事業に関しては、非常にいいと思って、進めたいということで、先週実は、これ以上というか、この話の中で、地元住民と、私は東新町で話をしました。しましたら、実はそういう話じゃなくて、先週、地主が亡くなったんだと、ひとり住まいの、その方は8匹以上飼っていて、その地主が亡くなって、それで猫がデビューしたというか、緑ヶ丘第1公園の砂場なんかは、子どもは遊びへ行かせられなくて、ふん尿のにおいが、できれば砂場は閉鎖してもらいたいというような。それで、猫を何とかしてもらいたい、こういう話じゃなくて、臭くてしょうがない、どうしてくれるんですか、議員さん、みたいなことを実は言われて、だから今後、こういうのはいいと思うんですけれども、お年寄り、ひとり住まいの方、またお年寄りでなくても、ひとり住まいで動物等飼っている方が亡くなって、それで家族の方も何もいなければ、野良猫というか、デビューしちゃうわけです。その辺の対策というか、何とかこの辺を、即回答は出ないと思うんですけれども、ちょっと考えていかないと、苦しいのかなということ、今危惧しております。その辺、どうでしょうか。

○生活衛生課長

○ 実は、東京都の動物愛護相談センターというところがございまして、ここは動物を収容する権限がございまして、今、委員がおっしゃったように、いわゆる飼い主が亡くなって、飼えなくなったというような場合は、引き取ってもらえます。猫は、野生というか、生きられるので、野良猫をつかまえるということは動愛センターもやらないんですが、そういう飼い主がいなくなったり、あるいは傷ついたりとかで、もう生きられないとか、そういう場合は、引き取ることが可能です。ですから、動物愛護相談センターにご相談をいただくというのが、方法としてはございまして、今のところはそんなところでございまして。

○

○はぎわら洋一

前回と同じ、継続を主張いたします。

- 区のほうとして、ようやくというか、まず行動ありき、やって、その動向に、また東京都のほうでは、公園何かに規制なんかかけていないわけでごさいます、でも板橋区の公園に行くと、全部バツェン、バツェン、バツェン、僕は余りこれは好きじゃないんですけども、この辺の動向も見て、今後の推移を見たいと思いますので、継続を主張いたします。

(継続審査分21. 2. 17受理)

(20頁)

陳情第182号 食料の自給力向上と、食の安全・安心の回復に向けて、食品表示制度の抜本改正について国への意見書提出を求める陳情

(継続審査分21. 11. 30受理)

(24頁)

- はぎわら洋一

公明党といたしましては、先ほどTPP、トランス・パシフィック・パートナーシップか、そういう状況、6月にそういうことがあると、大きなこれは問題であると思います。ですから、そういうものも含めて、動向を見守っていきたいと、継続。国のほうも大変だと思うんですけど、区のほうも負けずにしっかり頑張っていきたいというふうにして、継続を主張します。

陳情第190号 特別養護老人ホーム建設に関する陳情 (継続審査分22. 6. 8受理)

(29頁)

- はぎわら洋一

前回と同じ、継続なんですけれども、先ほどいろいろ議論がございました。私の母も、実は10年前に東京に連れてきてまして、そのときはマル福といって、東京都から要介護3以上だと5万円、それで高齢者のいる方は自宅でしっかり見ていってください、地域で面倒見てくださいという話がございました。その後、和好病院、先ほども話がありました、ナースがいる和好病院に入って、最後までそこで84歳、86歳、亡くなるまでそこにいて、非常によかったなど。僕にその話を東京都も聞いてもらえれば、どんどんこういうのがいいよというふうに言ってあげるんですけども、そういう機会もつくっていきなというふうに思っています。

今後の動向をまた見守っていきたい、その辺は区も努力して、併設多機能グループホームとかそういうものもふやしていきながら、やってもらいたいというふうに思っています。これは僕の気持ちでございます。継続を主張します。

陳情第207号 妊婦健診の14回分助成等の予算措置と産後1カ月健診の公費助成予

算化を求める陳情

第1項 妊婦健診助成継続の件

第2項 一時金引き上げ継続の件

第3項 直接支払い改善施策の件

第4項 妊婦健診予算継続の件 (継続審査分22. 11. 29受理)

(42頁)

○はぎわら洋一

1から4まで、先ほども出ましたけども、継続を主張します。

僕のこれは個人的な意見というか、早く50万に、公明党としては50万円、分娩費を拡充するというぐらいまでお金があれば、民主党政権もどうなるかわかりませんが、そういうふうに拡充も求めまして、継続でございます。

陳情第208号 国民健康保険制度の賦課方式変更により保険料が引き上がらないこと

を求める陳情

(継続審査分22. 11. 29受理)

(50頁)

○松岡しげゆき はぎわら洋一

私どもは、1項目めは、国民健康保険料の説明は継続で主張します。説明会については、今後努力を。2項目めは、賦課方式で上がる方もいれば下がる方もいます。これは不可能です、この願意を達成することは、不採択を主張せざるを得ません、今の状況では、これを主張させていただきます。

以上です。

陳情第209号 国民健康保険に対する国庫負担の増額を求める意見書の提出に関する

陳情

(継続審査分22. 11. 29受理)

(68頁)

○はぎわら洋一

前回どおり、国のほうをしっかりと、どうなるかわからないんだけど、継続を主張いたします。しっかりと見守りたいと思います。継続で。

(福祉部関係)

陳情第163号 障害者自立支援法の抜本的見直しを求める陳情

(継続審査分21. 9. 29受理)

(70頁)

○はぎわら洋一

前回どおり、継続を主張いたします。

8月までの、これは公明党がかなり推進した制度だったんですけども、障がい者の方からいろいろあって、それはきちっと早急に整理していかなければいけないということで、今、一生懸命やっているということで、かなり国会議員も板橋に来て、研究等も進めながら内閣府にも持っていているというようなことだそうでございます。継続を主張いたします。

陳情第164号 障害者自立支援法を廃止し、人間らしく生きる権利を保障する総合的な障害者福祉法の確立を求める陳情 (継続審査分21. 9. 29受理)
(70頁)

陳情第165号 政府に対する障害者自立支援法に関わる意見書提出を求める陳情
(継続審査分21. 9. 29受理)
(70頁)

陳情第166号 障害者自立支援法の撤廃の意見書を求める陳情
(継続審査分21. 9. 29受理)
(70頁)

○委員長

以上で意見を終了いたします。

陳情第163号 障害者自立支援法の抜本の見直しを求める陳情、陳情第164号 障害者自立支援法を廃止し、人間らしく生きる権利を保障する総合的な障害者福祉法の確立を求める陳情、陳情第165号 政府に対する障害者自立支援法に関わる意見書提出を求める陳情及び陳情第166号 障害者自立支援法の撤廃の意見書を求める陳情につきましては、なお審査を継続すべきとの発言と表決を行うべきとの意見がありますので、最初に継続審査についてお諮りいたします。

陳情第163号、陳情第164号、陳情第165号及び陳情第166号を継続審査とすることに賛成の方は挙手願います。

賛成多数 (5-3)

陳情第183号 心身障害者医療費助成、心身障害者福祉手当を、65歳以降の新規の人も対象にしていただくための陳情 (継続審査分21. 11. 30受理)
(78頁)

○はぎわら洋一

継続を主張いたします。

医療というのは、65歳、70歳、75歳、上にいけばいくほど、丈夫な人もいますけれども、医療にかかる方が多くなるというふうなこともあって、非常にこの辺、いろいろ協議しなきゃいけないのかなというふうに思っておりますので、継続です。

陳情第191号 「福祉タクシー券」の支給対象に関する陳情

(継続審査分22. 6. 8 受理)

(80頁)

○はぎわら洋一

公明党も継続を主張いたします。

確かに要介護から、僕の周りにも要介護でなくなって、要するに毎日歩いて元気になって帰ってきたという、そういうおばあちゃんもいます、現に。おじいちゃんも毎日ウエイトリフティングじゃないけれどもやって元気になったと。要介護の趣旨というのが、戻していくというか、健康になっていくという関係であります。だから、大変なところは福祉タクシー券も必要なのかもしれない。その辺、先ほどもあるように、議論が必要なのかなと思います。継続を主張いたします。

陳情第210号 在宅の難病患者、呼吸機能障がい者の療養生活の質の向上のためにパルスオキシメーターの助成対象の拡大を求める陳情

(継続審査分22. 11. 29 受理)

(86頁)

○はぎわら洋一

前回どおり、継続を主張いたします。

これは、在宅難病患者、呼吸機能障がい者の療養生活の質の向上のために、ドクターの指示が必要なんです。ですから、それを軽視しちゃいけない。これは、僕の実の姉とかいとこが看護師、この前もそういう話しました。お正月でも、帰ってそういう話をしたら、ちょっと話がずれるかもしれないけれども、僕の携帯、万歩計がついて、もう少し歩いたら中性脂肪が減るとか何とか、そういうのまでつくような携帯になっちゃいました。もしそういう形で、タニタに話してそっちのほうでパルスがついちゃったというような、それは例えがちょっと不適切かもしれないんですけども、そんな形で簡単にだれにもできるような形があるならば、そういうあれもあるでしょう。

でも、これはドクターの指示が必要だということがまだあります。そういう点で、慎重にこの辺は検討していかなければいけない。物自身は非常にいいもので簡単に使えるということは聞きましたけれども、そういう形で、先ほどの自民党のほうからもありましたように、今後、もう少し検討する必要があるのかなと。また、我々も勉強していかなきゃいけないのかなというふうに思います。

○ 取り下げ願いの提出された陳情

			取り下げ
事件の番号	件名	受理年月日	年月日
13	陳情第 168号 入院時の生活において、ヘルパー派遣を 求める陳情	21. 9. 29	22. 12.
18	陳情第 201号 子宮頸がん予防ワクチン接種に公費助成 をお願いする陳情 第2項 法定接種化国要望の件	22. 9. 29	23. 1.

○ 閉会宣告